

表 12 ケヤキ林の組成 (檜村 1974 より改変)

林床型	チャ	ク	林床型	チャ	ク
	ボ	ル		ボ	ル
調査林分数	9	13	調査林分数	9	13
高木層			低木層(続)		
ケヤキ	V 4	V 3	ツリバナ	IV 1	III 1
ミズナラ	II +	I 1	コマユミ	IV 1	II 1
トチノキ	I 1	II 1	アブラチャン	V 1	IV 3
クリ	I +	II 1	ハイイヌガヤ	III 1	II 1
ハウノキ	・	III 1	ヤマモミジ	II 1	III 1
亜高木層			イタヤカエデ	II +	II 1
ムラサキシキブ	III 1	・	ケヤキ	II +	I +
アブラチャン	III 2	II 1	オオバクロモジ	I +	II 1
アワブキ	II 1	I 1	草本層		
サワシバ	II 2	III 1	テイカカズラ	III 1	I +
ケヤキ	II 1	II 2	ジュウモンジシダ	III 1	I 1
ヤマモミジ	II 1	II 2	アブラチャン	・	II +
低木層			ハイイヌガヤ	III 1	III 2
チャボガヤ	V 3	・	クルマバソウ	II +	II 1
ハナイカダ	III 1	I +	ツタウルシ	II +	II +

I~V は常在度階級, +~5 は中央値平均をブロン・ブロンケの被度階級で示してある。

である。いずれもうっそうとした森林で、林床にはチャボガヤが密生している。両温泉街のしつとりとした落着きは、このケヤキ林に負うところが多い。また、福島県自然環境保全地域に指定されている相馬郡新地町の鹿狼山、いわき市田人町の御在所山なども、その植物景観の主体はケヤキ林である。

6) ハンノキ林

低凹地は、地下水位の高さや更新の良否によってさまざまな植生が成立する。水位が高く水の更新がよくない所ではヨシ沼沢になるが、水位が低く、ある程度の水の更新のある所ではハンノキ林が成立する。会津盆地には、かつてはかなり規模の大きいハンノキ林が見られたようであるが、戦後の食糧増産に伴う水田開発によってほとんど姿を消した(吉岡 1954a)。

小規模のハンノキ林は、しかし、あちこちにみられる。猪苗代湖周辺や裏磐梯などにもその例